

むっみ

第64号 2018. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

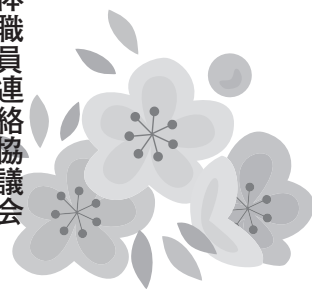
目次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	2	平成30年戊戌年からの目標	会津東部土地改良区	15
新年のご挨拶	会 長 湯 浅 裕 治	3	戊戌の年に考えること	鈴木 清 剛	15
新年のご挨拶	水土里ネット福島 (福島県土地改良事業団体連合会) 専務理事 後 藤 庸 貴	3	新年の抱負	渡 辺 隆	16
第41回総会		4	新会員のみなさんより 今後の抱負	武 藤 新 弥	16
永年勤続 10年勤続を振り返って	福島市土地改良区 高 橋 敏 浩	7	自己紹介	猪苗代町土地改良区 佐 藤 直 仁	18
つながり	飯館村土地改良区 川 村 初 子	8	新たな挑戦を	鮫川堰土地改良区 安 藤 慧	18
30年を振り返って	会津大川土地改良区 阿 部 美 紀 子	9	宜しくお願いします。	江花川沿岸土地改良区 大 木 喜 寿	19
永年勤続表彰をいただいて	磐城小川江筋土地改良区 矢 吹 英 信	9	初めての改良区です	水土里ネット福島 阿 部 優 樹	20
土地改良事業との出会い	請戸川土地改良区 江 畑 立 行	10	宜しくお願いします	母畑地区土地改良区 鈴 木 新 一	20
第40回全国土地改良大会静岡大会開催		12	宜しくお願いします	水土里ネット福島 関 根 誠	21
「ふじのくに」で語ろう土地改良が創る豊かな水土里を		12	宜しくお願いします	水土里ネット福島 新 國 真 人	22
年男・年女		13	宜しくお願いします	会津北部土地改良区 川 口 貴 也	22
年男	鮫川堰土地改良区 大 井 川 和 弘	13	宜しくお願いします	会津北部土地改良区 菊 地 悠 樹	23
感謝の気持ちを持つ	鮫川堰土地改良区 大 平 理 恵 子	13	宜しくお願いします	阿賀川土地改良区 菅 智 子	24
5回目の戌年を迎えて	母畑地区土地改良区 森 田 多 恵 子	14	土地改良区職員として	阿武隈川上流土地改良区 相 山 雅 俊	24
			土地改良区職員として	杜川沿岸土地改良区 緑 川 望	25

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会
会長 湯浅 裕 治



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、平成三十年の新春を迎えることができたことを心よりお祝い申し上げますとともに、本協議会の運営に対し特段のご支援とご協力を賜りまして深く御礼申し上げます。

本協議会の平成二十九年度の総会は、七月十三日にいわき市「スパリゾートハワイアンズ」において、来賓のご臨席のもと開催し、特別功労表彰並びに永年勤続会員の表彰が出来たことは本協議会にとって、大変、慶ばしいことです。

さて、五月に土地改良法が改正されました。農地中間管理機構が借り入れる農地について、農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備の実施ができることや土地改良事業の申請人数要件の廃止、共有地に係る代表制の創設などが柱とされています。

また、米政策も平成三十年からは国による生産数量目標の配分、生産数量目標に従って生産した農家に支払われていた米の直接支払交付金が

廃止され、それに代わるものとして飼料用米や米以外の穀物への助成金などに転換されようとしています。

これらは、国が示す「農業競争力強化プログラム」を具現化するための法改正や見直しであるとされており、その前提となる農業生産基盤の整備は土地改良事業が担うべき分野であり、今後、国の予算や事業推進に期待したいところです。

農業農村を取り巻く環境は、かつてないスピードで変化し、先を見通せない状況が続くものと思われ、土地改良区も時代とともに進化を遂げなければなりません。

そのためには、それぞれの土地改良区において、より一層の業務の効率化と財政の健全化を図ること、組合員負担の軽減をめざした管理体制の構築、職員個々の技術力と能力の向上、関係機関だけでなく地域住民など幅広い方々との連携を進めることも大切であると考えます。

持続可能な農業農村にするためには、土地改良施設を適切な時期に改修・更新していくことが必要となっています。

先人たちの努力と叡知によつて築かれた地域資源である土地改良施設や農地を次世代に継承し、地域の発展に少しでも寄与できるよう微力ながら私自身も日々の努力と研鑽を積み重ねてまいりたいと思います。

最後に、本年が会員の皆様にとりまして、よりよい年となりますようご祈念するとともに、益々、ご健勝で土地改良事業でのご活躍を衷心からご期待申し上げ、年頭の挨拶といたします。

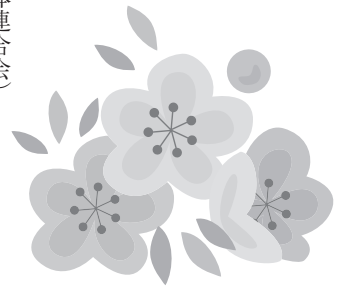
新年のご挨拶



みどり
水土里 ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 後藤 庸貴



あけましておめでとうございます。

今年は戌年になりますが、戌年にもいろいろあり平成三十年は「戌戌（つちのえいぬ、ぼじゅつ）」となるそうです。戌（つちのえ）には植物の生長が絶頂期にあるという意味があり、戌（いぬ）には草木が枯れる状態という意味があることから、これらを合わせると、「燃え尽きた灰の中から、新たに芽生えた新たな意味や価値が、グッと成長する」ことを意味しているとか。

平成二十三年三月十一日、東日本大震災により福島県は未曾有の被害を受けました。それから七年近くがたち、会津や中通り地方での最後の復旧工事となった「藤沼ダム」が竣工し、農業用水の供給が開始されました。浜通り地方では地域により進捗に差異はありますが、着実に復旧・復興は前に進み、現場では被災前よりも更にレベルアップした生産基盤の整備や地域づくりが進んでおり、まさに今年は「灰の中から新たに芽生えたものがグッと成長する年」になるのではないかと思います。

昨年九月に発表された福島県の「農業・農村の動向等に関する年次報告」を見ますと、平成二十八年では約十年前の平成十七年に比べ、農業就業人口は約半分の六万三千六百人となり、その平均年齢は約四歳上がって六十八歳になるなど、農業に従事する方々の減少と高齢化には歯止めがかかっておりません。しかしその一方で経営規模の拡大は着実に進み、経営耕地面積5ha以上の販売農家数が約一・七倍の三千戸に増加するといった明るい話題もあり、まさに農業農村整備事業による生産基盤の整備の成果がしっかりと現れているものと確信をしております。

生産基盤の整備を実施するためには、地元の農家の皆さんや関係機関との地道な話し合いや協議が求められ、これらを進める土地改良区の皆様には大変なご苦労があると思いますが、土地改良区は県や市町村といった行政機関と地元農家の皆さんを結ぶ重要な組織であるとともに、地域に密着した農業者の相談窓口としての機能や、農村環境の保全を始めたとする、地域で取り組む様々な活動に関わっていくなど、その存在意義は更に高まっております。当連合会といたしましても、土地改良区は地域を守る重要な組織であるということを踏まえながら、会員の皆様と一緒に、農業農村の復興・振興に全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

結びになりますが、この一年が福島県土地改良団体職員連絡協議会の会員の皆様にとりまして、希望と幸せに満ちた素晴らしい年になりますよう心よりお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。

第41回総会

福島県土地改良団体職員連絡協議会第41回総会は、平成29年7月13日（木）午後1時30分からいわき市「スパリゾートハワイアンズ」において開催された。

宮田洋副会長（阿武隈川上流土地改良区）の開会宣言により開会し、湯浅裕治会長（会津北部土地改良区）の挨拶の後、特別功労者及び永年勤続者表彰が行われ、表彰状の授与及び記念品が贈呈された。

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様の御健康とますますの御活躍をお祈りいたします。



来賓祝辞：後藤専務理事



来賓祝辞：土崎部長

表彰式後、来賓の福島県いわき農林事務所農村整備部長土崎真様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事後藤庸貴様より祝辞をいただきました。



議長：馬目氏

議長に鮫川堰土地改良区の馬目善市氏が選出され、挨拶の後議事に入った。

議案第1号「平成28年度事業報告の承認について」、議案第2号「平成28年度収支決算の承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、大井川和弘代表監査員（鮫川堰土地改良区）の監査結果報告の後、原案のとおり承認された。

議案第3号「平成29年度補正予算（案）について」、議案第4号「平成30年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）について」、議案第5号「平成30年度事業計画（案）について」、

議案第6号「平成30年度収支予算（案）について」は事務局の説明後、いずれも原案のとおり承認された。

総会は、渡辺隆副会長（福島県土地改良事業団体連合会）の開会宣言により終了した。



業務研修会

業務研修会では、「施設台帳の整備と維持管理計画書の作成について」を水土里ネット福島施設管理課富田秀樹課長補佐に、「睡眠力を高めよう」～元気な体は眠りから～をいわき市保健所地域保健課指導保健技師広江久美子氏にお話しいただいた。

2日目の現地研修では、スパリゾートハワイアンズ浄化施設、鮫川堰土地改良区上釜戸頭首工、ワンダーファームを視察した。



上釜戸頭首工



ワンダーファーム

福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(平成28年度～29年度)

役職	氏名	所 属	方 部
会 長	湯浅 裕治	会津北部土地改良区	会 津
副 会 長	宮田 洋	阿武隈川上流土地改良区	県 南
副 会 長	菅波 孝光	愛谷堰土地改良区	いわき
副 会 長	渡辺 隆	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹 事	小山 絹枝	福島市土地改良区	県 北
幹 事	三瓶 甚一	安達疏水土地改良区	県 北
幹 事	市川加代子	安積疏水土地改良区	県 中
幹 事	荒海 裕一	郡山市東部土地改良区	県 中
幹 事	近藤 勝広	表郷土地改良区	県 南
幹 事	五十嵐賢一	会津若松市湊土地改良区	会 津
幹 事	渡部 和徳	雄国山麓土地改良区	会 津
幹 事	鈴木 勝	布藤堰土地改良区	会 津
幹 事	斎藤 昌教	阿賀川土地改良区	会 津
幹 事	山内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹 事	鈴木 大輔	富岡町土地改良区	相 双
幹 事	川村 初子	飯館村土地改良区	相 双
幹 事(新)	佐久間 茂	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹 事(新)	三浦 宏幸	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	大井川和弘	鮫川堰土地改良区	土地連
監 査 員	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	中通り
監 査 員	大竹 伸明	会津大川土地改良区	会 津

特別功労者及び永年勤続者表彰

特別功労者

そうま土地改良区

遠藤喜雄

30年勤続

会津大川土地改良区
南相馬土地改良区
請戸川土地改良区

阿部美紀子
坂本洋一
江畑立行

20年勤続

会津大川土地改良区
そうま土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会

植松恵子
土屋良作
佐瀬隆聡

10年勤続

福島市土地改良区
雄国山麓土地改良区
飯舘村土地改良区
磐城小川江筋土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会

高橋敏浩
佐々木健
川村初子
矢吹英信
吉田和史



永年勤続

10年勤続を振り返って

福島市土地改良区
高橋 敏 浩

常日頃より皆様にはいつもお世話になっております。

縁あって平成18年4月から福島市土地改良区に勤務する事になり11年が経過しました。職連協の会員としては、勤務1年後から入会となり、昨年は勤続10年表彰を頂くことが出来ました。これも今まで縁があった皆様のおかげだと思っております。ありがとうございます。

前職は、市町村の互助会（中小企業へ福利厚生を斡旋）の仕事をしておりました。中小企業の職員・その家族が対象であり、今の仕事でお世話になっている組合員さん（農家の

方々）は対象外でありましたし、実家も自営業で農家ではなかったもので、土地改良区・農家の仕事については、特に知識もなく、私にとって未知の世界でした。

就職後、職場で耳にする言葉はどれも初めてで、職場の先輩たちに何度も話を聞き返し毎日仕事をしておりました。

私事でありますが改良区に来てから将来の伴侶に出会い結婚することが出来ました。農家の嫁をゲットしようと思った訳ではないのですが、結婚しようと思った奥さんの実家は農家であり、組合員さんでもあり、ここでも今の仕事と縁があるんだなと思っております。

自分として、この10年で週末の生活スタイルがちょっと変わりました。それは、奥さんの実家の手伝いをするものでした。それ以前は、休みと言ったら、釣りかバイクなど自分の趣味に使う時間が大半でした。

しかし、結婚する前から何気なく手伝いをするようになり、季節毎に水稻・果樹でそれとなく作業は、あ

りました。

梨・林檎の交配用の花取り・花粉交配から始まり、田んぼは、田植え・稲刈り・糶摺りなど、林檎への反射シートを敷いたり、ビニールハウスを建てたり、防風ネットを張ったり、果樹の改植など、毎年決まった事だけでもなく、何かしらやる事がありました。

農家の嫁さんを貰わないと中々出来ない手伝いでもあるし、改良区の職員だから何か為になるんじゃないか、機械をいじるのも嫌じゃないし、なんて思いながら、最初の頃は、手伝ってました。

この何気ない手伝いを通して、職場から実家に、又実家から組合員さん、組合員さんから職場へと、色々な事が自分の中で繋がるようになりました。農家の方々は、それぞれが社長さんなので、一つの事柄でも皆さんそれぞれの角度から物事を考えているので、自分とは違った捉え方なり、答えがあつて、いつも勉強させて頂いています。

私が改良区に入って数年後にはベテランの先輩達が皆さん退職となり、新人の集まりみたいな事務局になった改良区は、落ち着かない時期もありました。その時も、出会える

人、皆さんが先輩であり、経験者であつたので、常にいろんな話を聞いて仕事をしていました。

福島市土地改良区は、市内にあった各改良区を合併して出来たのが今の改良区です。規模は小さいですが、各地区によって色々な農業農村整備事業を実施しており、多種多様なので現場で勉強になる事がとても多い地域だと思っています。職員としてまだ10年しか経っていませんが、今までのその現場でしかできない経験、今までの人との縁や繋がりに感謝しています。

私は、これといった技術は何もありませんが、これからも人との繋がりを大事にして、皆さんの知恵を勉強させてもらい改良区職員として何が出来るか考えて実践していきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いたします。



稲刈りの時、お子様達は、いつも田んぼで遊んでいます。



この度、永年勤続表彰をいただきましたこと、身に余る光栄と感謝申し上げます。

私は、土地改良区の愛称「水土里ネット」が最終決定された翌年、平成15年に飯舘村土地改良区事務局の職に就きました。当時は、初めて耳

つながり

飯舘村土地改良区

川村 初子

にする用語に戸惑いも多く、無我夢中の日々で、特に、賦課金に関する業務は、常に張りつめた心境で臨んでおりました。

事務局は、飯舘村役場の農林土木係（現・農政係）に席があり、土地改良区職員は私一人で孤独感を感じることもありましたが、関係法令、行政方針など、多岐にわたり役場職員の方々からご指導いただけたことは幸いでした。

そんな中、勤務してから3年目に、福島県土地改良事業団職員連絡協議会や相双支部等が主催する研修に参加させていただく機会を得て、他自治体の改良区事務局の方にお会いし、悩みを共感できる仲間がいることに不思議と安堵感を覚えたことが思い出されます。その折に、人・物・情報をつながりの大切さ、自然と命のつながりなど「水土里ネット」という言葉の中にある意味を再確認し、私が一助となるべき土地改良区の役割を見出すことができました。この貴重な経験は、私に土地改良区事務局を務め続けさせる原動力となり、今につながっております。

これまで、農家の方々から、先人から受け継いだ土地を必死に守ろうと努力された話や、基盤整備事業に

携わったご苦労等をたくさんお聞きする中で、農業を営んできたという「誇り」を感じ、感銘を受けることが多々あったことも忘れることができません。

最近、「農業は日本と言う国を支える原点の手仕事」と耳にしました。また、県内の学校において「土を耕し、種を播き、命を育み、命をつなぐ」人間にとって最も基本的な活動である「農業」を通して、豊かな心や社会性、主体性を育成する授業カリキュラムが組まれている、と言う記事を目にしました。直接「土に触れ、成長を観察し、命をいただく」。農村においては当たり前だったその過程にこそ、本当に学ぶべきものがある、との思いを深めています。

当村においては、原発事故により平成23年4月に全村避難となり、平成29年3月末に帰還困難区域の一地区を除いて避難指示が解除されました。しかしながら、この6年にわたる歳月は、村民の体力、気力を奪い多くの農家の方々の再開意欲を減退せしめる期間でもありました。

平成29年度は「復興元年」と言うべき年でしたが、4月の段階で帰村される方は元の世帯数の1割未満にとどまり、農業再開に向けた準備の

年とも捉えておりました。しかし、予想に反して年度後半には、自家菜園等を営む「生きがい農業」に取り組む方が140件余り、先駆けて販売を目的とした営農である「なりわい農業」に取り組む方が70件余りにおよび、除染後の農業基盤の再整備が追いつかない現状を前に、理事会等において幾度となく今後の改良区のあり方について議論を続けて来ました。

今後の当土地改良区は区域の内、外の別なく、村全体の農業を俯瞰的に捉えて、対策、方針を考えていかなければいけないのかも知れません。微力ではありますが、土地改良区の職員として、何ができるかを見定め、業務に励んでまいりたいと思います。今後ともご指導、ご支援のほど、よろしく願っています。

本年が皆様にとりまして、良き年でありますことをご祈念申し上げて結びと致します。



30年を振り返って

会津大川土地改良区

阿 部 美 紀 子

会津大川土地改良区に昭和61年に就職して早30年が過ぎました。入って6年目に国営事業の説明会で各地区に出向き、緊張しながら組合員といろいろな話し合いを重ね平成5年に完成をむかえました。

その施設も25年が経過し老朽化の為、国営事業の改修が今又始まっております。

今回の国営事業の同意徴収の説明会で地区ごとに集まって頂いた際、「阿部さん久しぶり、懐かしいね。」と声をかけていただき、その当時の役員さんだったり、区長さんだったりとお世話になった方々がいることで緊張がほぐれる事も多々ありました。

平成16年の改良区合併では、心機一転新しいメンバーでのスタートとな

り、昨日の事のように思えます。そして今現在では、若手がどんどん新しい事業や工事に取り組んでいる姿を頼もしく思う限りです。国、県の職員の方々も自分が若い頃にお世話になり、また廻り廻って何年ぶりかにお仕事を一緒にさせてもらう機会があると、当時の話にも花が咲きます。皆様の御支援で今日があることに本当に感謝申し上げます。

先輩方から昔の海外研修の話もよく聞かれましたが私も土地改良職員連絡協議会やその他の研修で他の土地改良区の話聞き交流を図る事も大事な勉強の一つだと考えております。良いものは取り入れ、相手にも情報を提供する。

昔の話をしますと、以前は賦課金も未納者がなく、区長さんが現金で持参し、納期日までには全額納めて頂ける事が普通で、今では口座振替にした事により、事務の簡素化には繋がりましたが逆に滞納整理に苦労することになった事も時代の流れだと感じております。

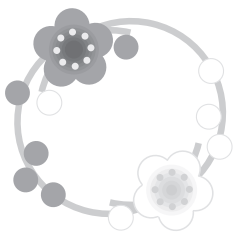
当改良区も昭和59年度には、一部を残しほとんどは場整備が完了し、残り2地区も完了をむかえ、今現在は、施設の維持管理と老朽化した施設の改修が追いつかない状況です。

今田の水管理がスマートフォンでも出来るようになってくるとか、後10年も経てば農家も目まぐるしく変わっていくことでしょう。

今は厳しい社会の中、定年をむかえても家でのんびりとした生活をおくれる人がどれだけいるでしょうか。何歳まで働けば隠居生活がおくれるのか不安も一杯ですが、体を動かせるうちはまだまだ元気に頑張らねばと思う今日この頃です。

いつも共に頑張る同僚には、これからも力添えを頂き、私なりに努力していきたいと考えております。

この度は、表彰有り難うございました。



永年勤続表彰を いただいて

磐城小川江筋土地改良区

矢 吹 英 信

この度、永年勤続表彰をいただき有難うございました。ほかの方々に比べたら経験もまだまだですが、あつという間の10年でした。これまでの間、ご指導いただきました役員はじめ関係機関の方々に感謝いたします。

当改良区の職員は3名、技術職は私だけという組織ですので最初の引き継ぎはあったものの、その後は手探りの状況でした。特に畑違いの農業土木の分野では戸惑いも多くありました。その様ななか、他の改良区の方々にはいろいろな場面でご指導をいただいたり、様々な情報をいただいたりしました。組織は違って職場の先輩や同僚のように接していただいたことは大変助かりました。「組織は人なり」のことばがあるよ

うに組織を動かすのは人ですが、組織の小さい土地改良区では人材育成にかける費用や時間の投資はなかなかできないのが現実です。改良区同士の連携があることはたいへん力強いことです。

人間の子供の10年間というのは、歩いたり、言葉を覚えたり成長が目に見えてわかりますが、この年になると10年前の自分と何が変わったのか、新しい物事を吸収する能力や時代のトレンドなどへの感覚が鈍ってきているのを実感します。これからいろいろなことに興味を持ち続け、体力が落ちてくる分、内面的充実を図っていききたいと思います。

当改良区は小川江筋の維持管理を主としています。受益地内の農業が長く限りとされる組織です。受益地、組合員の減少、維持管理費の増加は加速化していきます。営利企業であれば立ち行かなくなるのは火を見るより明らかです。組織の継続が小川江筋を次世代に伝えることにつながります。そういう意味でも中長期計画や改良区体制強化計画は大切なものとなってきます。それらの実現に向け努力し次の世代にバトンを繋ぐ役割を果たしていければと思っています。各土地改良区の

皆様には今後も良きアドバイスやご指導をいただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。
今年も皆様にとりまして良い年であります事をお祈りいたしております。

土地改良事業との 出会い

請戸川土地改良区
江 畑 立 行

昭和60年5月より旧請戸川土地改良区に国営造成施設の大柿ダムとの管理要員として奉職し、30年が経過いたしました。土地改良区の合併や平成23年3月11日発生の東日本大震災・東京電力福島原子力発電所の事故による避難も含めいろいろな場面で人との出会いがあり、農家受益者・職場及び関係者の皆さんに支えられ勤務できましたことを感謝申し上げます。

私が、土地改良区職員になった当

時は、国営農業水利事業請戸川地区のダム本体工事が完了し付帯設備等の整備、頭首工、幹線用水路の建設工事及び県営かんがい排水事業で頭首工・用水路工事が進んでおりましたが、ダム本体の観測・施設の維持管理等が主な仕事でした。昭和61年1月から試験湛水が開始されダムの安全確認にあたり、流入量が少なく計画どおり進まず苦労した思い出や、大雨により一晩で貯水位が23mも上がってしまい、係留中のボートが沈没の危機、緊急放流操作による水エネルギーによるスピンドルの破損等、いろいろな課題が明確になり、ダム検討委員会の資料作成や検討委員会会の指摘事項による追加調査等改善も含めた確かな挙動管理、水管理、維持管理の重要性を認識させられました。

これらの経験は後に活かされ、平成元年の8月6日～9日にかけて台風13号が福島県を横断し甚大な被害をもたらしましたが、洪水対応によるダム下流部において河川氾濫軽減に効果を発揮するとともに、平成11年4月24日～26日の低気圧による豪雨での洪水吐ゲート操作による放流操作においても、貯水位が満水まで1mしか余裕がなく本当にゲートが

動作するか、目標放流量操作が的確にできるか不安と緊張をしながら無事動作したときの安堵感は今も忘れることがあります。

また、平成9年10月に管内の土地改良区の合併により新請戸川土地改良区が発足され、基盤整備事業地区の担当になり、旧小高町土地改良区で促進していた大井塚原地区の事業採択にむけた地区担当を担うことになり、40才にして基盤整備事業の基礎からのスタートで事業制度、地区の事業概要、これまでの促進にあたる課題状況の把握等、日々課題への挑戦の毎日でしたが、事業採択への理解が得られない方が当時26名程おり、県の担当者からは100%の同



意がなければ採択は困難？プレッシャーとなりましたが、地区に飛び込んで理解を得る行動あるのみでした。当時の小高町の担当者と朝・晩・土・日に個別訪問や、基盤整備後の担い手への農地集積等組単位の説明会等により、どうしても理解が得られない方が1名となり調整を図りながら採択され、その後、ほ場整備を契機とした集落営農の確立にあたり、経営体の法人化がなされたことは感慨深いものでありましたが、今回の東日本大震災の津波により壊滅的被害を受け震災から7年が経過しようとしています。復旧・復興はこれからであります。

今回の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難等により、地域のあり方、環境が変わってしまい「結い」による連携が崩壊してしまいました。先人がこれまで築きあげてきた農地・ため池・堰・農業用水路を維持管理してきた水利組合の歴史をどのように守っていくかは組合員の協力・理解なくしては成り立ちません。地域の再生にあたり現代版「二宮仕法」による構造改革が今後の課題となります。

私は、もうすぐ卒業を迎えますが過去をふりかえれば前職時代から現

場で育てていただきましたし、現場にいれば汗まみれ・泥まみれの作業服（1日3回は着替え冷や汗含む）になるまで動くことからでした。挑戦・失敗・挫折の連続から学ぶことがたくさんありますので後輩職員は失敗を恐れず仕事に挑戦、自分のものにする努力を怠ることなく、誠を尽くすようお願いしたい。

最後になりましたが、30年間大変お世話になりました。会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



第40回全国土地改良大会静岡大会開催

“ふじのくに”で語ろう土地改良が創る豊かな水土里を



第40回全国土地改良大会は、平成29年10月25日（水）午後1時より静岡県沼津市・ふじのくに千本松フォーラム プラザヴェルデにおいて、全国から約4,000名を超える農業農村整備関係者が集い開催された。

式典では、水土里ネット静岡伊東真英会長が開催地を代表し、「“ふじのくに”で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を」をテーマに掲げたと

おり、土地改良に関わる人たちの輝く姿を伝え、全国の土地改良関係者が「これからの土地改良」を語り合う契機となることを切に願っていると挨拶した。

続いて、全国水土里ネット（水土里ネット和歌山）二階俊博会長が主催者を代表し、本年度は補正予算を含め大幅削減前と同額の予算を確保することができた。来年度は土地改良にとって16年ぶりに改正した新しい土地改良法を基軸に新たな展開を図る、その節目の年となる。この年を実りあるものとするためには、我々は更に闘いを続けていかなければならないと挨拶した。

このあと、来賓祝辞、土地改良事業功績者表彰式が行われ、本県からは、江花川沿岸土地改良区理事長橋本 明氏が「全土連会長賞」を受賞した。

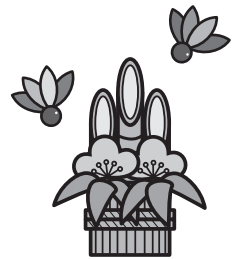
基調講演、静岡県の優良事例紹介、大会宣言の後、水土里ネット静岡より次期開催県である水土里ネット宮城に大会旗が引き継がれ、式典のすべてを終了した。

（第41回の宮城大会は平成30年10月16日開催）





年男・年女



年男

年男

鮫川堰土地改良区

大井川 和 弘

この度、年男とのことで、新年の抱負を執筆することになりました。

さて鮫川堰地区内も、組合員の高齢化や担い手不足、米価の低迷により急速に耕作放棄地が増えております。他方で、水路の経年劣化による改修事業が待ったなしで直面しており難しい局面に立たされております。今後事業申請や、地元負担金の問題をどうするか、組合員の皆様に適切にご相談できますよう身の引き締まる思いであります。

ところで、昨年職員連絡協議会の現地研修でスパリゾートハワイアンズの浄水施設を見学した際に、説明

をさせて頂きましたが、補足説明をお許し下さい。

昭和20年に、終戦を迎え、戦後の復興が急務となりました。

常磐炭鉱は、当時は、年間25万トンの出炭量でしたが、約4倍の100万トンに増産計画が立てられました。しかし、1トンの石炭を掘るのに50トンのお湯が湧出し、採炭は暑さとの戦いでもあったそうです。そこで、坑内の多くに水風呂を設置し、作業員の体温を下げる方法と、併せて坑内に水を霧状に噴出して坑内そのものの温度を下げる方法が考え出されました。そこで、常磐炭鉱は、昭和22年に二級河川鮫川に新規水利権を取得し、水路については鮫川堰かんがい用水路に共用を求められて、現在に至っております。

鮫川堰も、農業の将来を考えると、安心とはいえませんが、水路を共用している皆様と共に歩み、微力

ながら全力を尽くしたいと思っています

年女

感謝の気持ちを持つ

鮫川堰土地改良区

大 平 理恵子

新年明けましておめでとうございます。

突然ですがみなさん、常日頃から感謝していますか？いつも感謝の気持ちを持つていますか？

巷の噂で、「感謝をすると、幸せが訪れる」と聞いたことがあります。私が私もそんな気がいたします。さて、今年で人生3度目の『年女』を迎えました。

普段は何かにつけてのんびり型の私ですが、歳月が流れる早さには本当にびっくりしています。

一回り前からのこの12年間は、家庭のこと、子供の誕生、子育て、子供の受験、仕事での悩み、そして再就職と、自分にとってまるでジェットコースターのような山あり谷ありの、激動の時代でした。

それだけに、自分や家庭の事だけ

る今日この頃です。

に精一杯で、なにも考えず目の前のことをこなしていくことだけにとらわれ、心に余裕がなかったと思います。

私ごとですが、石の上にも3年のことわざ通り仕事にも慣れ、業務の一部を任せてもらえるようになり、職場の一員になれたと実感しています。

私の職場は、男性3名の中、女性1人だけの職場です。始めは戸惑いもありましたが、ある時に私がミスをしたことに謝ると、怒るどころか笑って「自分も同じようなことをした」とフォローしてくれたことに対して、常に心に余裕を持ち合わせているのだと感じ、そして、いつも同じ目線でみてくれた上司にはとても感謝しています。

その時、感謝の気持ちを持つことはとても大切なことだと思いました。

他の人からみればとても小さな出来事かもしれませんが、私にとってはこの経験があったからこそ感謝すること人生は素晴らしいものになつていき、自分自身も心が豊かで見える美しくなっていくものだと気付きました。

それ以来、感謝の気持ちを持つこ

とを忘れずにいようと心に決めていきます。

今の自分があること、存分に働けることは、家族、職場の仲間、周囲の多くの方々の支援があるからこそであり、決して自分だけでここまで来られたわけではなく（周りのおかげで今の自分があるのだ）という気持ちで謙り、感謝しなければならなと思いました。

それは、今までの12年間でも感謝する出来事はあったかもしれませんが、そのことに気付かず、ただ、慌ただしくすごしてきたことは、その間の人生において自分にとってなにも成長することもなく、また、接してきた方々に心の底から自分の気持ちや伝えられていなかったのではないかと思います。だからこそ、私が今まで忘れていた感謝の気持ちを持

つということをお願い出させてくれたことに對し、心からありがとうございます。嬉しいです。

そして、私自身もこれから接していく方々からありがとうと感謝されるような人になっていけるよう、心に余裕と自信を持って人生を歩んでいきたいと思っています。

ランニングを始めて4年目になりますが、今年はよりいっそう健康管理に気を付け、なにか新しいことに挑戦し、充実した日々を過ごすとともに、多くの方々との出会いを大切に、常に感謝の気持ちを持って人に接し、素晴らしい1年にしてまいります。

また、次に訪れる『年女』までの12年間は、家庭、職場、地域に今以上の貢献が出来るよう、自身を高めていく所存です。

年女

5回目の成年を迎えて

母畑地区土地改良区

森 田 多恵子

まもなく人生60年、5度目の年女

になります。早いものです。土地改良区に勤めて25年になりました。

振り返ってみて思う事、それは今まで無事に、平凡に生きて来られた事でしょうか。

中学3年の時腎臓病になり、その後結構大病もしましたが、人並みの人生を送って来たように思います。

東日本大震災のような時もそうですが、病気をしても、当たり前の日常生活がどれほど幸せなことを実感します。普通に働けて、普通に暮らせるということが。

でも、それが続くことと不満がすぐ出て来てしまいます。進歩がないのです（笑）。

60歳という頭で浮かぶのは「定年」という言葉。「定年になったら何するの？」と良く聞かれますが、即答ができません。

のんびり一人旅をしたいし、庭の手入れや家の中も片づけたい、と思っではいますが、聞いたところによれば、そういう時間はすぐに過ぎて物足りなくなるらしいです。

だからという訳ではありませんが、これからしてみたいことをいくつか書いてみたいと思います。

まず一つ目、着物が好きなので着付けの勉強をしたいと思っていました。テレビ等でも着物を着ている人の着付けが気になります。きれいに着付けている人を見ると私も出来るようになりたいと思います。

二つ目は、戌年生まれだからというのではないですが、犬が大好きなので現在も2頭飼っています。もう1頭飼えたらいいなと思っています。

ですが、これは犬の寿命を平均15年と考えるとちょっと自信がありません。盲導犬の子犬を1年間、又はリタイアした犬の余生を預かるボランティアもしてみたいと考えたりしていますが、命を預かることなので軽い気持ちでは出来ないとも思っています。

三つめは手芸、パッチワークをしてみたいです。完成した作品を見るととっても暖かい気持ちになります。定年後してみたいことは今の時点ではこれぐらいでしょうか。

仕事に関しては、他の人と比べると病気のこともあって休みが多くて迷惑をかけている私なのですが、理事長、事務局長始め職員の皆さんにサポートして頂き、治療しながら勤務を続けることができました。普段口に出してお伝えすることが中々できないので、この場で感謝とお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

最後に、難しいことは良くわかりませんが、農業情勢が良くなって、組合員の方々が今より少しでも楽に賦課金を納めて行けるようになることを心から願って、また健康に注意して迷惑をかけることのないようにして勤めて行きたいと思っています。

年男

平成30年戊年からの目標

会津東部土地改良区

鈴木 清 剛

平成30年は戊年という事で、私が年男の年になります。正直その事には全然気が付かなかったのですが、「むつみ」の執筆依頼で気が付きました。改めて年男と考えると、どうしても12年前の自分と現在の自分を比較したくなるものです。

12年前というと、20代前半。その頃は、フットサルやバスケットボールをやっていたので週3回位で適度にスポーツをしていた頃でした。元々スポーツは好きな方だったので、大学卒業後に社会人になってからたまたま知り合いから誘われて、フットサルをやるようになり、またそのつながりでバスケットボールのチームにも誘われました。どちらのチームも活動が盛んなチームだったので、練習や試合も頻繁にあり20代前半はほとんど仕事とスポーツの毎日でした。

当時は飲み会等も多くあったので結構お酒も飲んでいましたが、ス

ポーツで体を動かしていたおかげで太らずに体形を維持出来ましたし、風邪などの病気にもかかる事もありませんでした。また、仕事のストレスもスポーツで発散出来ていました。今思えば、とても充実して楽しく健康的な日々を送っていたという事に気づかれます。また、この事が仕事を頑張れるモチベーションにもなっていました。

しかし現在は、日々の仕事に疲れてスポーツをする事に対して消極的になってしまい、月1、2回程度のフットサル位しかスポーツはやっていません。それが全ての原因では無いにしろ12年前より太ったし、風邪も引きやすくなり、ストレスも溜めがちになった気がします。一昨年にいたっては、小学生以来感染した事のなかったインフルエンザにもかかりました。しかも、短い期間にAとBの両方に感染するという情けなくなる位残念な経験もしました。

このように比較して考えると、これからの自分に必要なのは、もっとスポーツをするという事だとよく分かりました。

平成30年の戊年からは、積極的にスポーツで体を鍛え健康を維持する事で、仕事のストレスを発散し、私

生活を充実させて仕事等へのモチベーションを上げていきたいと思えます。そして、12年前のような充実して楽しく健康的な日々をこれから送って行く事を目標にしようと思います。

そういえば、体を動かせる農作業

年男

戊戌の年に考えること

水土里ネット福島

渡辺 隆

新年明けましておめでとうございます。今年が戊戌、十二支のうち第11番目に数えられる干支で、昨年は酉年・来年は亥年になります。さらに戌年を細分化すれば、戊戌（つちのえいぬ）の年となるそうです。戊（つちのえ）は、植物の生長が絶頂期にあるという意味があり、戌（いぬ）は、元は滅で、草木が枯れる状態の意味があることから、平成30年の戊戌は、昨年に燃え尽きた豊かさや幸せの灰の中から、新たに芽生えた新たな意味や価値が今年グッと成長することを示しています。ただし、

も体を鍛えるのに良さそうなので、これからは親孝行も含めて田の草刈等の農作業も積極的にやって行こうと思います。

私は新たな目標が決まりました。各改良区の皆様も、新年から新たな目標に向かって頑張っていきましょう。

この芽吹きが上手くいかなかったり、中途半端に過去に囚われたり拘わったりしていると、それが自分の足を引っ張り、よくない結果になるそうです。今年は、地道な努力を重ねることで枯れずに成長し、良い1年にするために、皆さんと前向きに仕事をしていきたいと考えています。

5回目の年男としての目標ですが、仕事は仕事で給与を頂きながら着実にするのは当たり前で、今年も皆さんと協力しながら農業農村整備事業の更なる推進のためにと考えています。

さて、仕事を離れると地域農業振興のため、農業後継者として、土日と有給休暇を有効に活用しながらの今風の農家の側面もあります。経営規模はあえてふせませんが、水稻、果樹、野菜少々を作付けし、JA・J

A直売所・個人へ出荷販売をしている状況です。高齢の両親とともに2足のワラジで何とか農地を守っている状況であり、このような現状は地域全体を見ても同様な状況になっています。

農業を守り、育てていく仕事をしていながら、現場は様々な問題を抱えていることを身染みて感じているところです。兼業農家は、サラリーマン収入により農家を守り、専業農家はリタイヤ農家の点在する農地を管理し、小規模農家は年金収入と体・農業機械が悲鳴をあげるまで農業を続け、その後は農地は耕作放棄地、農業後継者もない深刻な状況になっています。将来の農業・農村・農家を何とかしなくてはならない、新規就業者が農業で生計を立てられるよう、地域農業の将来像を考える立場になってきていることを実感しているところです。

我が身に移すと、給与収入と農業収入、両親は国民年金、長男同居の会社勤め、良かったことは両親が健康で今も現役であること。まもなく地域農業農村の一員として地域を担っていくこととなるが、はたして何ができるか。水稲、桃・桜桃、野菜と1人でどこまでできるか、未熟

な栽培技術で年1回での収穫・収入が上がるか不安だらけです。水稲栽培では機械化が図られ、経営の大規模化がすすめられると思いますが、機械への投資が耐えられるか、収支に見合う対価が得られるか不安があります。果樹等は、最大現状維持として農地を守っていくことが目標となるかと思っています。一つ良かったことは、ほ場整備により農地が整備され償還も完了し管理しやすく、また農村環境が劇的に改善されたことです。先輩方の努力に大きく感謝しています。

今後、私たちの後の世代が、長男が農業を守るのではなく、会社就職するようないきなり就農できるような環境づくりが求められていると思います。安定した給与の支払いがあり、休暇がきちんと取得できることが重要で、収入があれば農業には定年ではなく体の続く限りできる良い仕事であると思います。

国では農業戦略として「農産物の輸出・農地の集積大規模化、コスト削減・高収益作物の導入など」がありますが、自分も含む末端農家は、小規模企業であり何か大きなメリット・後押しがない限り、変化しないのではないかと思います。現状

の資本の中で、賭けはしない現状を維持するか廃業を選択するかと考えていると思います。

最後に、現実に戻り「むつみ」が発行されるころは、毎週土日2ヶ月ほどかけ桜桃の剪定を始めます。福

年男

新年の抱負

水土里ネット福島

武藤新弥

あけましておめでとうございませう。本年もよろしくお願い申し上げます。

月日が過ぎるのは早いもので、今回の寄稿依頼を受け改めて自分の年齢を実感しているところです。

さて、新年の抱負を述べるにあたり、はじめに昨年のご報告からさせて頂きたいと思っています。晩婚が叫ばれる昨今、かく言う私も行き遅れており、多少なりとも結婚を意識しておりました。ですが、自宅が山間部にあり生活の利便性が悪く、尚且つ兼業ではありますが農業を営んでおり、こんなところに嫁は来ないなあ、

島の果物の一番手として、6月には直売所へ出荷し店頭に並びます。風評払拭のため直売所「こころ」にお立ち寄りくださることお願いし筆をおきます。

となかば諦めていました。そこへ物好きな方が現れ、嫁に来てもいいと言って頂きようやく結婚という運びになりました。嫁にはこんな田舎に来てもらって本当に感謝しております。

ことが決まり、両親の挨拶や式等のもろもろの段取りを考えているなか、妻の妊娠が発覚し昨年後半は怒濤の日々を過ごして参りました。特に結婚式は意外と準備が大変で、最近写真のみや、身内だけで行う方も多い中、ちゃんとした式を挙げるため仕事そっちのけで準備してまいりました。

おかげさまで無事終えることができました。この場を借りて、ご出席して頂いた上司の皆様、また祝電を頂きました改良区の方々、仕事のフォローをして頂いた換地課の皆様にお礼を申し上げます。大変お世話

になりました。ありがとうございました。

結婚式が終わると直ぐに出産準備に入り、無縁だと思っていた産婦人科に行き、羞恥心を抑えマタニティ講習に参加し、人生で体験したことのない日々を過ごしてまいりました。最初は実感がなかった子供という存在が、日に日に大きくなっていく嫁のお腹と、エコーを通して脈打つ子供の心臓を見て、改めて実感し不安と期待を感じております。妊娠途中には成長不足だったり、逆子の可能性があるなど落ち着くまでには



いろいろな心配もあり、今はただ母子ともに健康であれと願うばかりです。

と、人生においてこれだけめまぐるしい年があっただろうかという1年でした。

今年2月には我が子が誕生する予定ですが、我が子も同じ戌年であり非常に感慨深いものがあるとともに、今年が良い意味でさわがしい一年になるのではないかと思っております。犬か（ケンカ）のない明るい家庭を目指し、忠犬のように尽くしていきたいと思えます。

同時に平成21年に福島県土地改良事業団体連合会に入会し、10年目の節目を迎える年です。まだまだ未熟者ではありますが、今後の土地改良事業に貢献できるよう精進していきたいと思えます。つきましては皆様方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



新会員のみなさんより

今後の抱負

猪苗代町土地改良区

佐藤 直仁

平成29年4月より猪苗代町土地改良区でお世話になっております、佐藤直仁と申します。よろしくお願ひします。

ここに勤務するまで土地改良区のことを理解しておらず、まっさらな状態でした。

何故、川の水を使用するのに許可が必要なのか、ということや、この

少人数で猪苗代町の水路をどうやって管理しているのか等、様々な疑問がありました。すぐに解消することとなります。

当初、改良区の業務のほとんどが事務仕事だと聞き、安心していましたが、天候に激しく左右され、今年は例年より荒れた様で、現場に出る機会が多くなりました。

多くの倒木が発生し、出来る限り自分達で処理しようとしたのですが、倒木は重すぎて、チェーンソーで細かい丸太にしても持ち上げるのがやっとで、甘く見ていました。

また、多くの動物が流れており、その処理が今後の課題の一つであり、これだけの自然があるながら、動物の捨て場所に困るといった事態となっています。

それから、普段の見回りでは危険が多く伴い、堰の道路を走る時は、水路と崖に挟まれた箇所が多く、慎重に運転していますが、途中、倒木が発生していると引き返さなければならず、バックをして戻る時は生きた心地がしません。

また、徒歩で移動する時は熊が出ないか気になり、話が頭に入らないこともありました。

その他、組合員の方からの連絡を

受け、現場に向かった所、話と異なることや、現場の正確な位置がわからないことが多々ありましたので、なるべく組合員の方と一緒に現場確認することを心掛けようと思いました。

改良区の一員となり、これらを経験したことで、猪苗代町は自然豊かで観光名所となっている所も多くありますが、そこは多くの方々によって支えられているのだと、知ることが出来ました。これは改良区に勤務する前の私であれば、気にも留めなかったことです。

例えば、国道や県道は毎日通るので、舗装を直す工事は目にする機会が多く、管理されているのがわかりやすいですが、水路は農家や改良区でもなければ、普段見る機会がないため、こんなに多くの方々が管理されているものとは知る由もありませんでした。

今後の抱負と致しまして最優先は、かんがい期、非かんがい期の必要水量を把握しておくことです。組合員の方々は長年の経験で、目で見ただけで水量がどれ位あれば足りるといった事がわかるそうですが、私にはそうはいきません。昨日より今日は水量が少ないと言われても同じ

に見えます。

それでは組合員の方々の要望を聞いても対応出来ず仕事にならないため、出来る限り各水路を回り水量板や物差しで水量を測り、1年を通して細かく記録し、来年からはそれを参考にしようと思っています。

最後に、この短期間に事務所を始め、他の改良区の方や役員等、多くの方々に散々ご迷惑をお掛けして来ましたが、優しくご指導して頂きありがとうございました。皆、新会員の私にも腰の低いばかりで救われました。

自己紹介

鮫川堰土地改良区

安藤 慧

平成29年4月より鮫川堰土地改良区に勤務しております、安藤慧と申します。慧(けい)という漢字は書くのも読むのも難しいため自己紹介の際は名前のことをよく聞かれます。昔は、「またか」と思うこともありましたが、自己紹介の際などに名前が会話のきっかけになることが多いので、今では両親に感謝しています。

今回は、新会員の「むつみ」に載せる原稿執筆依頼ということで、簡単な自己紹介や鮫川堰土地改良区に入って体験して感じたことをこの場を借りて少しお話できればと思います。

私は、地元福島県いわき市出身で、今年（平成29年）の11月に30歳になりました。前職ではスイミングスクールのインストラクターをしていたので、土地改良区とは畑違いではありましたが、同じ水の商売ということで人生とは思議なご縁で繋がっているのかと考えさせられます。

本事業所に勤めはじめて8ヶ月になりますが、まだまだ戸惑うことばかりです。特に組合員の来客時や電話対応の際など、「どここの誰それだ」と地名を言われるのですが、わからない地名が多く何度も聞き返してしまったり、先輩に代わっていただくことがほとんどです。今は、一刻も早く組合員の方のお名前や住所・地名などを覚えようと、なるべく多くの方に接するよう心がけています。

また、先日は近隣の小学校から本事業所に出前講座の依頼があり、訪問させていただく機会がありました。

た。多くの生徒さんが真剣な眼差しで思い思いにメモをとりながら、鮫川堰の成り立ちや鮫川用水がどのように使われているのかを聴いていました。

その後、質疑応答も行われる中で、生徒さんから「年間何カ所くらい（用水路は）壊れるんですか？」という質問がありました。それに対して先輩方は、「壊れると困ってしまうので壊れる前に修理しています。」という話がありました。私は、今回の出前講座で職員としての心構えや、責任など色々なことを勉強させて頂きました。後日、小学校からお礼状と共に、生徒さんからたくさんのお手紙を頂きました。どの生徒さんも自分の身近に流れている川の水の使い道に驚いていて、少し前の自分を見ているようでした。

以上簡単ではありますが、私の近況報告とさせて頂きます。

今後、様々な研修会などでお会いする機会があることと思いますが、その際はご指導・鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新たな挑戦を

江花川沿岸土地改良区

大木 喜寿
鈴木 義教

自己紹介します。大木喜寿64才天栄村在住、本年四月入職し7ヶ月になります。鈴木義教63才須賀川市在住、入職3年経ちました。一人とも、定年後新たなスタートの就職です。

当土地改良区は、福島県須賀川市西部に位置し、江花川と簀の子川が貫流し、その簀の子川上流から流入している農業用ダム『藤沼ダム』は150万㎡を貯水し、837haを潤しています。799名の会員がおりダムの水管理に重点を置き事業を展開しています。

藤沼ダムは、昭和12年着工24年完成し地域農業の振興に大きく寄与してきました。しかし、平成23年3月発生した東日本大震災によりダムの本堤、副堤が被災し、ダム下流部に甚大な被害が発生しました。未曾有の大災害でした。その後、福島県が耐震性能の検証等を経て、同25年10月復旧工事を着工し、同28年12月に完了しました。翌29年1月より試験

湛水を実施し29年4月、7年ぶりとなる農業用水の供給が再開されております。現在も試験湛水中で、毎日堤体及び貯水池周辺の巡回点検をしています。

土地改良区の受益地には、農水省が実施している多面的機能支払交付金事業に7組織が参加しており、その事務を土地改良区が受託の方向で現在調整中です。且つ未加入の6地域には、加入を推進し集落の農用地保全活動を支援する予定であります。

《鈴木からの決意は！》

採用されたからには、公的な団体職員として自らの行動が周囲におよぼす影響を考え、自覚をもって、組合員には公正・公平・誠実な対応をモットーに業務遂行にあたっています。入職直後は土地改良区とは何ぞや？から始まり、専門用語もわからないあり様でした。日々の仕事には事務局長や先輩・理事の皆さんから助言を頂き徐々にはあるが仕事を進めていけるようになりました。感謝しております。今後とも宜しくお願いします。

《大木からの入職の決意は！》

土地改良区の仕事は、ただ漠然と賦課金徴収の仕事をするだけはいくらの考えしかしておりませんでし

た。ところが、実際に勤務をすると仕事は色々であり戸惑う毎日でした。当初は、気持ちだけ焦り、あれもこれもしなくてはと戸惑いの毎日でした。一人で悩まないで何でも聞くようにとの事務局長・先輩のアドバイスがあり、ようやく仕事がスムーズに出来るようになりました。今後とも宜しくお願いします

最後になりますが、土地改良区域では、農業従事者の減少・高齢化・後継者不足・農業機械故障との葛藤、受託農業者（個人）の廃業、耕作放棄地の増大等の課題が迫ってきています。これら数々の課題や懸念材料がある中で、当土地改良区には地域の農業振興への一層の貢献が求められています。

人生経験は長い二人ですが、知識



や経験が不足しているところは、研修会・講演会等に積極的に参加し自己研鑽して、土地改良区運営をサポート出来る知識と情報収集に努めてまいります。

今後とも土地改良関係各機関の皆さまには、ご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

宜しくお願いします。

水士里ネット福島

阿部 優樹

平成29年4月より福島県土地改良事業団体連合会にてお世話になっております、阿部優樹と申します。よろしく願いいたします。

私は、福島市飯坂町で生まれ育ちました。両親が農業に携わる仕事をしているため、子供の頃から、田植え体験や田んぼの生き物調査などの農業に関するイベントに度々参加し、その中で農業の大切さ等を学びました。就職活動の際、故郷である福島県のために、農業の分野で携わっていきたいと考え、福島県土地改良事業団体連合会を受験しました。

私は現在、農村振興部農村整備課

に所属しています。恥ずかしながら農業農村整備事業とはどのようなものなのかわかっていませんでした。職場での会議や地方自治体の方々と打ち合わせに参加させてもらった際も、話の最中に出てくる専門用語がわからず、その事業で何をするかを具体的には理解できていませんでした。しかし、職場の皆様に、わからないところを細かく丁寧に教えていただき、少しずつではありますが、業務の内容を理解し、覚えることができています。

私の今行っている業務の内容は、ほ場整備事業、中山間事業における、図面、調書作成や現地調査を主に行っています。現地調査では、レベル測量、耕土深調査、地耐力調査、旧構造物調査等を行いました。レベル測量以外は初めて行う作業でしたが、使い方をわかりやすくまとめた説明書を頂いたり、現地に入る前になぜこのような作業が必要なのかを説明してもらったりと、諸先輩方のご指導や心遣いにより、作業の方法と意味合いを理解した上で現地調査に臨むことができました。

私は、土地改良事業についてわからないことだらけで、一度教えてもらったことでも間違えてしまったこと

とも何度かあります。また、業務を行う速度も速くありません。そのため、今後は、自身でも土地改良について勉強して、少しずつでも理解を深めていきたいと考えています。同時に、業務中のミスを減らしていくことや作業の速度を上げていくことも努力していきたいです。

まだまだ未熟で知識や経験も足りない私ですが、職場の皆様や会員の皆様のお力になれるよう、精一杯努力をしていきたいと思っておりますので、これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

初めての改良区です

母畑地区土地改良区

鈴木 新一

私は、平成29年4月から母畑地区土地改良区にお世話になっております鈴木と申します。

この改良区にお世話になりながら、須賀川市の民生児童委員をしております。

当土地改良区の前任者が退職したことから、私に再雇用先として話があり、現在お世話になって9カ月を過ぎようとしております。

土地改良区の業務に携わったのは初めてで、聞いたことが無い専門用語が出てきたりしまして戸惑い、この改良区の仕事は務まらないか不安な気持ちでいっぱいでした。スタートしましたが、周囲の職員皆さんに助けられて何とかやってきました。

業務を始めてからは、国営事業の経過年数や償還金の返済期間がまだ16年残っているなど、まだまだ多くの問題を残したまま受益者の事業償還金完了には至っていない現状に驚いています。

耕作放棄地や後継者不在による償還金の滞納額の増加や、国営土地改良事業に参加をしたのが祖父で、その借金が40年後の後継者に回ってきて、早い家では三代世代交代が行われて農地の相続放棄、土地の相続者不明まで出てきている状況に、現在の土地改良事業のように、受益者負担が少なくなるよう、国及び県の対策が早急に必要と感じています。

未納賦課金はどこの改良区でも一番の課題かと思いますが、前職の経験を生かして、未納を解消するため毎日奮闘しております。

当改良区で初めてダムの果たす役割を、広く一般の皆様知らしめる催しを開催して、多くの参加者にダ

ムが果たしている役割を知らしめる事が出来ました。

改良区のこうした催しで、人が生活して行くうえで、ダムが果たしている役割、水の大切さなどを説明することが、守りから攻めへの第一歩となり、未納金解消につながれば良いと思います。

私自身、まだまだこれから先、幾つかの出会いと経験をしたいと思います。ですが、それらを大切に、そして仕事に反映し、大きく変わろうとする農業及び、土地改良区に微力ながらお手伝いをしていきたいと思っています。

未収金解消は難しくて当然ですが、自分自身に言い聞かせ、毎日一杯の日々を過ごしていきたいと思っていますので、今後とも宜しくお願いいたします。

よろしく

お願いします

水士里ネット福島

宍戸 凌

初めまして、平成29年4月より福島県土地改良事業団体連合会に新規採用として勤めさせていただいて

おります、農村整備課・技師の宍戸凌です。よろしく願いいたします。

4月からこの土地連の職員となり、あつという間に8か月がたちました。私は高校時代に福島明成高等学校で環境土木科に通い、測量・施工・設計・水理・造園を学んでいました。しかしながら、いざ働いてみて感じた事は学んできた「完成されるもの」、出来ているもの、答えのあの打ち合わせといった様々な0からのスタートが求められることを痛感、また今は自分の仕事などをやらなければならぬことをやらねばならない自分の責任や、先輩方やほかの職員の方々にも迷惑をかけてしまうという、「責任」という言葉をとても実感しました。

今後勤めるうえで目標として、ほ場整備の設計や専門用語等必要とされるものが多々ありますが悪戦苦闘しながらも、日々努力、日々勉強し、また社会に溶け込むためのコミュニケーション能力を高め、土地連内外でも改良区の皆様や市町村関係の方々との業務をスムーズに行えるようにするために伸ばしていきたいと思っています。

よろしく

お願いします

水士里ネット福島

関根 誠

平成29年4月より福島県土地改良事業団体連合会で勤務しております関根誠と申します。よろしく願います。

4月に採用していただき早7ヶ月が過ぎましたが今年1年目の自分にとっては、日々の業務が新鮮で勉強させていただいております。

私は高校を卒業し採用していただきました。高校は福島明成高等学校でそこでは主に施工、設計、測量、水理の基本的な知識、技術を学んでおりました。それらの知識を生かせるような仕事をしたいと考えていた

ところ、福島県土地改良事業団体連合会の職場体験をさせていただき、東日本大震災の影響など今の農業の現況を知り復興に携わりたいと考え入職したいと考えました。しかし入職前は一口に土地改良といってもどういった内容の仕事をするのか曖昧なイメージしか持てませんでした。実際に仕事に携わってみると土地改良の奥深さを知り日々充実感を持って仕事に取り組むことができております。

私がこの7ヶ月で行ってきた主な業務内容は、圃場整備とストクマネジメントです。圃場整備では、1年目調査として土壌調査や用排水系統調査などやり方を教えていただきながら取り組んできました。構想図作成も行い、地元の方の要望を取り入れながら作成していることを知りました。ストクマネジメントでは、10m区間での線引きとコンクリート圧縮試験を行いました。シュミットハンマーの使い方や暗渠に入るということは初めてだったのでとても新鮮でした。また、初任者研修や農業農村整備事業成果発表会にも参加させていただき、社会人としてのあり方や、過去にどういった事業をしてきたのかを学べて勉強になりました。

ました。

最後にまだまだ未熟者の私ではありますが、徐々に仕事の流れを覚え少しずつ出来るようになってまいりました。入職してから今までご指導してくださった先輩の方々にはとても感謝しております。業務には責任を持って取り組んでいきたいと考えておりますので今後ともご指導の程よろしく願います。

よろしく

お願いします

水士里ネット福島

新國 真人

平成29年4月から福島県土地改良事業団体連合会に採用になりました、新國真人（につくにまさと）と申します。珍しい苗字なのですが、両親ともに生まれは大沼郡金山町です。

わたしは新会員ということですが、29歳という決して若くもないので気持ちは新社会人のつもりで行動していきたいと思っています。

以前の仕事は測量士として、土砂崩れなどの縦横断測量や、河川の定期横断などを行ってきました。定期

横断では船に乗り、音響測深機という装置を使い、水中の地形を測っていました。定期的に測ることによって、洪水が来た時に地形がどのような変化をしているか、砂がどこに堆積しているかなどを調べていました。わたしは船があまり得意ではなく、波が強いと酔ってしまうことが多くとても大変でした。業務上あまり関係なかった為、土地改良事業が何かと本会にきて初めて知ったくらいでした。

採用になりました8ヵ月、あっという間に過ぎたように感じます。採用になる前は臨時技術員として確定測量の補助業務を行ってまいりました。正職員になり業務の中で、境界杭を農家の方々と一緒に設置する仕事をしたときに、「前と比べて作業がしやすくなったよ」と声をかけていただき、仕事のやりがいが増えてきたところであります。まだまだ半人前のわたしをフォローしてくださいる上司や先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。もっと経験を積み重ねて必要とされるように日々精進してまいります。

これからの土地改良事業、農業においても様々な方々との関わりを持ち、知恵や知識を借りるだけではない

く、さらに応用していけるように、皆様には今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願います。

よろしく

お願いします。

会津北部土地改良区

川口 貴也

はじめまして。この度4月から会津北部土地改良区にお世話になっております川口貴也と申します。よろしく願います。

今回採用していただくまで土地改良区について、たまに賦課金の通知書や広報が家に届いているのを目にする程度で、仕事の内容もよく知らず、土地の改良に関する仕事なのかなと言ったイメージしかありませんでした。また、農業の経験も田植えや稲刈りなど忙しい時期に家の手伝いをする程度で、管内の地理についても、生まれ育った土地であるのにもかかわらず、働くようになってから初めて聞く部落があるほど、土地勘がない状態でした。

このような状態からのスタートだったため、いざ働き始めても分からないことだらけで、初歩的なこと

も教えていただきながら業務を行い、少しでも早く仕事を覚えようと事務所内での会話に聞き耳を立てても分からない専門用語が飛び交い、ほとんど内容が頭に入らず、用語を調べて意味を覚えるといった繰り返しで、多くの知識が求められる仕事だと痛感しました。ですが、上司の方々が色々なことを丁寧に教えてくださるおかげで、悪戦苦闘しながらも日々学びながら業務に励んでおります。

今年度は研修会に参加させていただき、他の土地改良区の職員の方々のお話を聞く機会や、現場で組合員の方や関係者の方々と会話する機会が増え、勉強になることがとても多く、また土地改良区の業務が地域や農業にどれだけ貢献しているのか感じられることができました。

少しずつではありますが、業務について分かってきたことも増えてきました。まだまだ分からないことの方が多く、組合員の方々とお話しする時も返事に戸惑ってしまったり、しっかりとした説明が出来なかつたりと不甲斐ない私ですが、先輩方のように聞かれたことや伝えたいことを分かりやすく的確に組合員の方々や関係者の方々に伝えられる

ようになりたいです。そして少しでも早く組合員の皆様や、土地改良区、地域のお役に立てるように一生懸命努力し、人間としても成長できるように頑張っていきますので、ご指導ご支援の程よろしくお願いいたします。

よろしく

お願いします

会津北部土地改良区

菊地 悠樹

平成29年4月より会津北部土地改良区で勤めております、菊地悠樹と申します。

よろしくお願い致します。

私は土地改良区に勤務する以前は、関東で農業とは全然関係のない仕事をしていました。実家に戻るという事になり、地元喜多方で仕事を探していたところご縁があり、土地改良区に勤務することとなりました。ただ、初めは土地改良区がどんな仕事をしているのか、何をしたらいいのかわかりませんでした。ですが、先輩方に教えて頂き、少しずつですが成長していると思えるようになりました。

今、自分は賦課徴収係に配属され、覚えることがたくさんあり毎日が勉強です。賦課金を納めに來てくれる組合員の方の表情や言葉、集金に行ったときの対応方法、自分にとっては毎日が貴重な体験です。ある日、賦課金を納めてもらうと電話掛けをしたとき一度だけ組合員の方を怒らせてしまい、先輩に助けて頂いた事があります。その時の先輩の対応が良くて、電話を替わってから少したった頃には組合員の方と笑って話をしてる先輩のことは今でも覚えています。先輩から「気になるな。」「土地改良区職員ならみんなが経験していることだから。」と励まして頂きました。先輩、ありがとうございます。

まだ自分が勤めて1年も経ちませんが、10年、20年と勤めたときに自分がどんな成長をしているのか楽しみだなと感じている日々でございます。

先日、視察研修にご一緒させて頂き香川用水土地改良区を視察させて頂きましたが、その研修も貴重な体験でした。土地改良区職員になって半年ほど経ったくらいで、役員の方と深く話したことがなかったので、研修中は少しでも自分のことを覚えてもらおうと積極的に話かけたり、

話に耳を傾けて自分が答えられる質問が来たらすぐに答えられるようにしていました。最初は緊張して全然話せませんでした。研修が終わる頃には皆さんと接することができて嬉しかったです。

これから自分が経験したことのないことや、一度経験したら二度と経験できないようなこともこの先あるかもしれないし、壁にぶつかることもあると思います。ですが、そんな時は初心に戻り自分が働き始めたばかりの、緊張感やワクワク感などを思い出して、楽しく仕事をしていければいいなと思っています。人生で一番時間を費やすのが仕事なのであればその仕事を楽しく、そしてより充実した生活を送りたいと思っておりますので、日々勉強するという気持ちや忘れずにこれからどんどん成長していきたいと思っています。

最後になりますが、組合員の方や役員の方、そして県土地改良団体職員の皆様、今後共ご指導の程、よろしくお願い致します。

宜しく願います

阿賀川土地改良区

菅 智子

平成29年4月より、阿賀川土地改良区職員となりました菅（すが）と申します。平成20年10月より臨時職員として勤務していましたが、今年度4月より正職員となりました。

当土地改良区は会津坂下町にあり、私自身も会津坂下町出身、家は農家です。私の家はとても農家色の強い家庭で、パンを買うと「農家が米を食べないで誰が食べるんだ。」と父から叱られるような家庭でした。また、農家の子供は農業高校、女は家政科、と両親に厳しく言われ、兄達は農業高校に、私も家政科に進みました。いったい、いつの時代の話しかと思われますよね。これでも昭和の終盤頃の話です。なにかにつけては「農家なのだから」と「農業従事者」になるように言われて育ちましたが、あいにく両親の思うようにはなりませんでした。

そんな私でしたが、社会人となり、いくつかの職域を経て、阿賀川土地改良区に勤務することとなり、

はからずも「農業」を支える仕事に携わることとなったことに、不思議な縁を感じています。

私の子供の頃の土地改良区の印象といえば「基盤整備」でした。幼い頃に遊んだ堰や水路が無くなり、ナズナを摘んだ小さな水田も姿を消し、そのことを以前は少し寂しく感じていましたが、自身が土地改良区に勤務し、水田へ水を供給することの大変さを知り、農業の姿も変わリ続けなければいけないということを実感しました。

改良区での私の業務は、これまでに賦課台帳の整備で、特に国営かんがい排水事業のための同意徴集に係わる、組合員や土地台帳の整備は、筆ごと照合する地道な作業でしたが、管内の受益地を知るうえで大変収穫の多いものでした。

職員となり、会計にも携わることになり、10月からは実際に伝票をおこし、新しく覚えることがとても多く、日々奮闘しています。月次決算で数字が合ったときの達成感は何とも言えません。このような新鮮な気持ちを今後も忘れることなく、真摯に業務に向き合い、組合員の方々のために力を尽くせるよう、今後も努力してまいります。

会員の皆様、どうぞ宜しく願います。

土地改良区職員になつて

阿武隈川上流土地改良区

相山 雅俊

「むつみ」をご覧の会員の皆様、はじめまして、私は平成29年4月より阿武隈川上流土地改良区で職員として働く事となりました、相山雅俊と申します。よろしくお願い致します。

出身は西郷村で、阿武隈川上流土地改良区は西郷ダムの管理が主な業務ということで、地元で職務に励めることを本当にうれしく思います。

私の経歴はと言いますと、大学は経営学部を卒業、その後陸上自衛隊に入隊し4年の任期を満了した後除隊。製造業約2年というワンクッションを置き現在に至ります。地元で働くことをうれしく思う反面、農業その他の分野にまったくと言っていいほど関わってこなかったため、知識経験ともに乏しく、やっていくのかという不安があるのも事実です。

そんな私ですが、土地改良区で働き始めて8か月が過ぎました。恥づかしながら、土地改良区の業務は、ダムの管理、ダムの水を放流し、下流の田に水を供給するといったほどの知識しかありませんでした。農業という点においては、農家の高齢化、後継者不足というニュースでの知識のみでした。

しかしながらこの土地改良区で働き始めてから、理事をはじめ総代など、多くの組合員の方々にお会いし、話を聞く機会がありました。内容の多くが私の想像もしなかったことばかりで、素人ながら大丈夫かなといった不安を抱きました。中でも気になったことが、耕作放棄地が増えているということでした。

確かに言われてみると、幼いころ通学路として使用していた通りの田であった場所は荒れている所が増えているという印象を受けます。それだけでなく、宅地化が進み、田が減っているということが目に見えてわかりました。私は今、受益地の賦課漏れ調査を担当させて頂いているのですが、それが地図や紙上でもわかるのです。

ところが、悪い話ばかりではなく、企業単位で土地の所有者の代わ

りに耕作をする取組みや、耕作放棄地を減らす取り組みをしている方々もいると聞きました。

土地改良区で働くことがなければ、こういった問題や人々の努力を知ることもなく、きつと当たり前のように米を主食とし生きていったのだろうと思います。この土地改良区で、局長を始め関係者の方々、組合員の方々に多くのことを学ばせて頂き、まだまだ経験不足で何ができるのかはつきりとわかるまで時間がかかりそうですが、組合員の方のお役にたてるような土地改良区職員になれることを目標とし、これからの業務しつかりと励んでいきたいと考えています。

土地改良区職員

むつみ

社川沿岸土地改良区

緑川 望

平成29年4月より、社川沿岸土地改良区職員となりました緑川望と申します。職連協会員の皆様には今後何かとお世話になるかと思ひます。この場を借りてよろしくお願ひ申し上げます。

「むつみ」2017年1月発行号を手渡され、「これ、私も書くのかなあ」と読んでいたのが4月のことで、今、こうして新会員として筆を執らせてもらっているのが11月も終えようとしている頃と考えると、時の過ぎる早さに驚いております。

職員採用の募集を知り、恥ずかしながらそこで初めて土地改良区というものを知りました。私の実家は専業農家であり、私自身も休みの日には、春の種まきに始まり、田植え、秋の稲刈り等を手伝っておりましたが、用水路の維持管理や水利権などについて考えたことは一度もありませんでした。いざ入所してみると、土地改良区がその地域の農業において非常に重要な役割を担っていることを知ることとなりました。

社川沿岸土地改良区では、大神ダムをはじめとした水利施設を、直接、間接的に管理し末端水路を含めればその数はさらに増えます。もともと水量が豊富でないこの地域において、大神ダムの灌漑用水は、この地域で稲作農業を営む農家にとって生命線といっても過言ではなく、その維持管理、運営を任されているのでその責任は非常に大きいものと感じました。

大神ダムからの用水の管理に初めて携わって感じたのが、水利状況の格差でした。長い用水路になると、最下流は取水口から10数キロになります。絶対量が少ない水量のため下流域になるほど取水量が少なくなり、対策をしないと下流域に常にな水が届かない状況になってしまいうため、「配水割当表」により配水しています。しかし、それでも行き届かないこともあり、各苦情の直の声が事務所に届き、地域の方と調整を図りながら行わなければならない事に、この仕事の難しさを感じました。しかしながら、作業中に頂く地元地域の方々から温かい言葉や激励も多々あり、非常にやりがいの持てる仕事でもあると同時に理解することができました。

そんなことを経験しつつ、なんだかんだとされている内に8ヶ月が経とうとし、外の景色も秋から冬へと変わろうとしています。まだまだ若輩者ではありますが、諸先輩の指導のもと、少しずつではありますが土地改良区というものに理解を深めることができました。組合員の縁の下で力持ちとして、組合員の利益と、安全をどのようにして確保していくかを念頭に、今後は少しでも早く仕事を

に慣れるよう努めていきたいと思っています。

最後になりますが、入所初年度ということもあり、電話でのつたない私の対応にも温かい対応をいただき、非常にありがたく感じております。また今後、様々な場において、会員の皆様とはご一緒させていただくこともあるかと思いますが、その際はご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



表紙写真 「ふくしま むらの輝き2016」写真コンテスト
「収穫の喜び」 池上 和夫さん

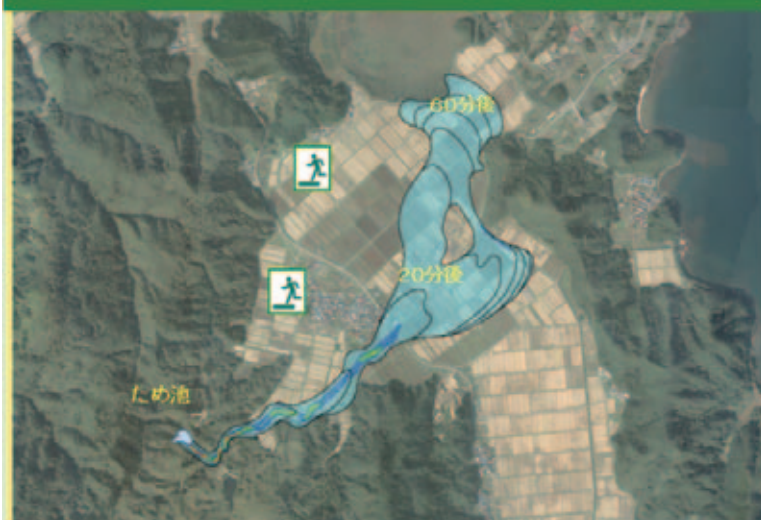
水土里ネット福島は、皆様と共に 農村の復興のため、歩んでいきます。

水土里ネット福島は、食料生産基盤の整備から土地改良施設の管理まで
農業農村整備事業に関する総合的な支援を行っています。



【新たな取り組み】

水土里情報システム(GIS)を活用した、ため池ハザードマップ作成への支援



本会が所有する【水土里情報システム】と【簡易氾濫解析ソフト】を使用して、ため池が決壊した場合の浸水想定区域図が作成できます。



福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502

福島市南中央三丁目36番地

TEL 024-535-0371

FAX 024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp>